

山本ようすけ

緑たちかわニュース No.17 (市政レポート 2026 年 新春号)



新しい年を迎え、記憶をたどり、未来を選ぶ旅へ

新しい年を迎えました。本年もどうぞよろしくお願いいたします。
昨年は戦後 80 年という大きな節目の年でしたが、混迷の1年だったと感じます。
年が改まっても、戦争や分断の現実が変わることはなく、不安や緊張を抱えた状況が続いています。そうした時代だからこそ、平和や人の営みが積み重ねられてきた歴史に目を向けることが、いまを生きる私たちにとって重要だと感じています。
過去を知り、現在を見つめ、未来を想う。その積み重ねを大切にしながら、市政の場においても一つひとつ丁寧に取り組んでまいります。



元旦はお雑煮
炊き出しからスタート！

祝 採択されました！

立川市 核兵器廃絶 平和都市宣言

2017 年、122 か国の賛成で「核兵器禁止条約」が採択されましたが、唯一の被爆国である日本はいまだ署名も批准もしておらず、残念でなりません。広島・長崎の記憶が薄れつつある今こそ、日本が率先して核廃絶の先頭に立つことには大きな意味があります。

立川市でも戦後 80 年の節目として「核兵器廃絶平和都市宣言」を行いました。議会でも全会一致での採択。会派を超えて全会一致となったことは、大きな前進だと受け止めています。戦後 80 年を越えた今、核兵器のない世界を目指し、地域から声を上げ続けることの重要性を改めて感じています。

一般質問で取り上げました

戦後 80 年の今、立川からできること

立川はかつて軍事施設が集まる「軍都」として発展し、空襲被害を受け、戦後は米軍基地としても利用されるなど、戦争の歴史と切り離せない歩みを辿ってきました。戦後 80 年を迎えた今、戦争を直接経験した人の声をどう未来へ残していくかが問われています。私は、市として記録をどのように進めていくのかを質問しました。

市からは、従前の平和事業に加え、戦争体験者の講座を映像等で残し、後世に伝えていく取り組みを検討するとの答弁がありました。今後の取り組みに期待します。

歴史探訪コラム

「西国立駅」はなぜ西国立？(なぜ東立川じゃないの？)

市民の方と古地図を広げて立川の歴史を眺めていたら、思わぬ発見が。立川駅と西国立駅の間に、「東立川」という駅。西国立も東立川も南武線開通時に開設されましたが、東立川は 1944 年の南武鉄道の国有化で廃止。西国立だけが残りしました。東立川駅の跡地を訪れると、その一角がわずかに盛り上がって見えました。地名や駅名には時代の記憶が隠れています。過去をたどると、いつもの風景の中にも新しい発見がありますね。



長期欠席児童への給食提供



不登校の子どもたちに「食」を通じたつながり!

昨年度から試行的に始まった長期欠席児童への給食提供が、給食センターで本格実施されました。登校が難しい子どもたちに給食を届けることで、外出のきっかけや学校とのつながりを感じてもらえ取組です。昨年度は延べ54名が利用し、32回実施されました。栄養面だけでなく、安心や生活リズムを支える取り組みとして高く評価しています。

東興岡調理場
(みんなのぐるりんキッチン)

スケボー対策

取り締まりだけでは限界では?

駅前やサンサンロード周辺で、夜間のスケートボードに関する苦情が相次いでいます。一時期と比べると減少傾向にあるものの、深夜の騒音や危険行為は依然として課題です。

スケボーの取り締まりには限界があり、利用者との対話や専用スペースの検討など、「共存の仕組み」を整えるべきと提案しました。立川を「若者が集まり、文化が育つまち」として描くか——まちづくりの視点から、今後も現場の声を生かした提案を続けます。

多摩都市モノレール視察



安全と技術を支える整備基地に潜入!

市議会の市内視察の一環で、市役所のすぐ隣に本社と車両基地がある「多摩都市モノレール株式会社」を訪問しました。整備中の車両や巨大なタイヤ、非常時の対応体制、今後の延伸計画などについて詳しくお話を伺いました。

運行の裏には多くの人の技術と努力が支えていることが印象的で、日々の暮らしに欠かせない公共交通が、どう支えられているのか。改めてその重要性を実感した視察となりました。



多摩都市モノレール
車両基地

向松町の餅つき大会⇒

高松町のまちづくり

～健康会館には学童保育所を設置!～
～競輪場は避難所機能を導入!～

健康会館の機能が錦町のはぐくるりに移転しましたが、後続の活用方法として第二小の学童保育待機児童が増えていることから、学童保育所になります。

また、競輪場はこれまで災害時には駅周辺の帰宅困難者の一時滞在施設としてしか指定されていませんでしたが、地元の人たちも避難できるような機能も付加させます。今後も高松町の議員として、地元施設が地元の人たちの役に立てるよう、今後も注視しながら声を上げていきます。

文化財の指定が前進!

でも人と場所が足りない…!

立川氏館跡や普濟寺の資料など、市内の文化財指定が進んでいます。私は、地域の歴史を後世に残すための人員体制や収蔵環境の課題を指摘。

市からは、専門職の確保が難しい中でも工夫を重ね、今後はデジタル化も視野に収蔵方法を検討していくとの答弁がありました。

文化財は一度失えば戻らない、まちの記憶そのもの。限られた環境でも、守り伝える取り組みを市として継続するよう求めました。

歴史民俗資料館

普濟寺

客引きはもっと取り締まれないの?

～条例はあるのになぜ減らない?～

立川駅前の客引き行為について、「怖くて通れない」「子どもに見せたくない」との声が寄せられています。市には過料を科せる条例があるものの、罰則は一度も適用されていません。指導で済ませては市民の不安は解消されない指摘し、実効性ある対策を求めました。他自治体の事例を研究し、「市が本気で取り組んでいる」と伝わる対応をとるべきだと提案。市も今後、商業者や警察との連携を進める考えを示しました。市民の安心を守るため、今後も現場の声を基に改善を働きかけていきます。

山本ようすけ

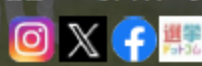
1990年 11月6日武蔵村山生まれ、堀城育ち
2009年 立川高校卒業
2014年 一橋大学 社会学部 卒業
外資系コンサルティング会社に就職
2018年 立川市議会議員選挙に初当選

立川市議会議員
会派「立憲ネット緑たちがわ」
厚生委員会 委員長

【議会外の所属等】
NPO 法人さんきゅうハウス理事、保護司
緑の党グリーンズジャパン
気候危機・自治体議員の会 等

【好きなこと】
歴史、博物館や美術館、街歩き
ゲーム、子どもと遊ぶこと

各種 SNS 等、「山本ようすけ」で検索!



←会派の仲間たち
立憲ネット
緑にちかわ

